

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

子どもたちが安心できる学級づくり

新学期

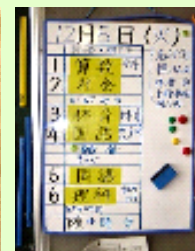
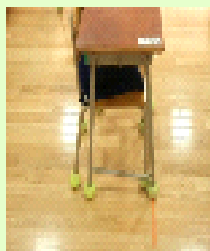
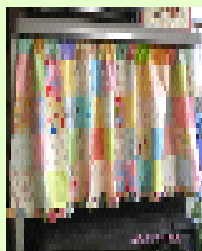
1 教え合う、助け合う集団づくり

- (1) 子どもと教師の関係づくり（教師の考え方・関わり方が学級の雰囲気をつくる）
 - ・不安な気持ちを抱いている子どもに対して、教師が心を開き、ありのままの姿を見せることが大切である。得意なことを紹介したり、よい言葉を笑顔で伝えたりして、子どもとの信頼関係を築く。
- (2) 子ども同士の関係づくり（互いの違いを認め合う関係をつくる）
 - ・教室での特別支援教育は、集団や友達の教育力を生かすことが鍵となる。「質問じゃんけん」「私は誰でしょう」「名刺交換」「リフレーミング」等のゲームを通して、友達によさに気付くとともに、互いが親しくなるためのきっかけづくりを演出する。
- (3) 保護者と教師の関係づくり（保護者には自信をもって子どもと関わる姿を見せる）
 - ・新学期は保護者も不安になりやすく、それが子どもに影響を与える。4月中に、授業参観や学級懇談が計画されるが、「学級経営ができるか自信がありません。」等、保護者が不安になるような言動は避ける。学級懇談では、前向きなメッセージを伝えて協力をお願いする。

私が印象に残っている先生は、学級の子ども一人一人を「えこひいき」していました。全員に目を向け、心を寄せ、よいところを見付けてはほめていました。そして、どの子どもとも、それぞれ違った形で信頼関係を築いていました。

2 安心できる環境づくり

- (1) 教室環境の調整（刺激を減らす 見通しがもてるスケジュールの掲示 視覚支援の活用）



- (2) ルールの明確化（視覚的、肯定的に提示してみんなで確認する）

- ×「廊下を走らない」「授業中、よそ見をしない」→注意になる
- 「廊下を静かに歩こう」「指示を出したとき注目する」

- (3) 自分の役割があり、認められる機会の設定

- ・学級に必要な係活動を子どもと一緒に考える。係活動の数が足りないときは、細分化を図り、一人一役を基本とする。
- ・子どもが得意な面を生かせる活動を用意するとともに、「みんなの役に立った！」が実感できるように評価する。「今日は黒板係をやってくれてありがとう」ではなく、「今日も黒板係をやってくれてありがとう」と言う。継続してほしいときは、「は」ではなく「も」が有効である。



子どもが存在感、所属感、安心感がもてるような学級づくりを進め、入学・進級をハードルではなくステップにしましょう！